

1975 年たて座新星

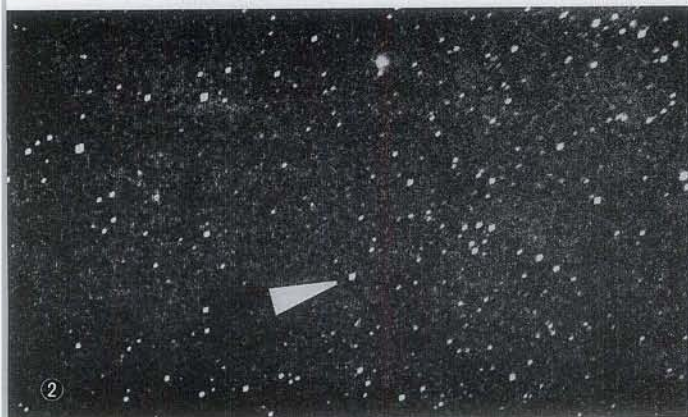
スイス、ベルン大学のウイルドは、1975年6月15日にたて座に写真実視等級 7.9 等の新星を発見した。

(本誌 10 月号雑報参照)



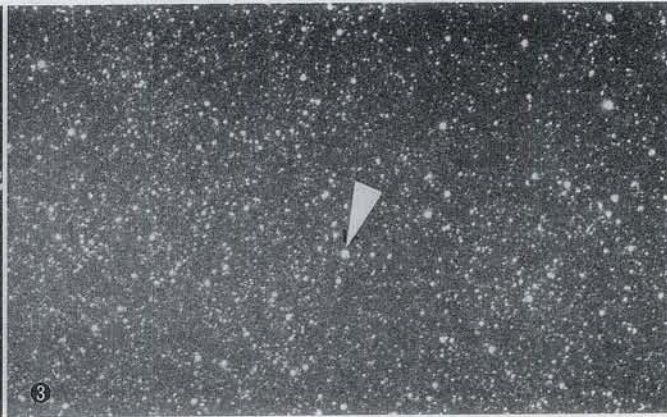
①

① 1975 年 5 月 6.740 日 (U.T.) $f=100$ mm $F=2.8$
Tri X $m \approx 9.3$ 桑野氏



②

② 1975 年 5 月 11.724 日 (U.T.) $f=100$ mm
 $F=2.8$ Tri X $m \approx 7.2$ 桑野氏



③

③ 1975 年 6 月 1.118 日 (U.T.) $f=600$ mm
 $F=4$ Tri X $m \approx 7.7$ 土屋氏



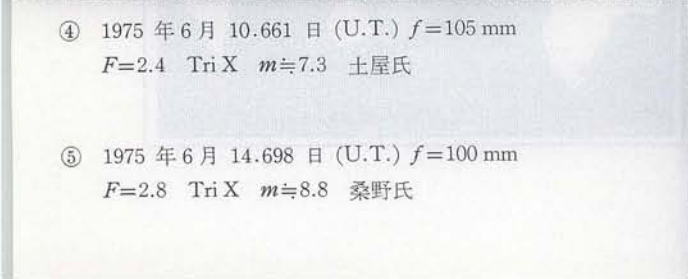
④

④ 1975 年 6 月 10.661 日 (U.T.) $f=105$ mm
 $F=2.4$ Tri X $m \approx 7.3$ 土屋氏

写真は土屋清・桑野善之両氏により撮影されたもので、ウイルドにより発見された時はすでに極大光度を過ぎていたことがわかる。

$\alpha=18^{\text{h}}52^{\text{m}}44^{\text{s}}.15$ } (1950.0)
 $\delta=-7^{\circ}47'00''.2$ }

ジャオの測定による。



⑤

⑤ 1975 年 6 月 14.698 日 (U.T.) $f=100$ mm
 $F=2.8$ Tri X $m \approx 8.8$ 桑野氏

二 題

1975 年いて座新星

大分県日田市の桑野善之氏は 1975 年 7 月 13 日に撮影したフィルム上でいて座に 8.4 等の新星を発見した。

写真は桑野善之・小島信久両氏によって撮影されたものである。

香西洋樹氏による測定位置は次のとおり。

$$\left. \begin{array}{l} \alpha = 17^{\text{h}}55^{\text{m}} 11^{\text{s}}.74 \\ \delta = -28^{\circ}21' 36''.6 \end{array} \right\} (1950.0)$$



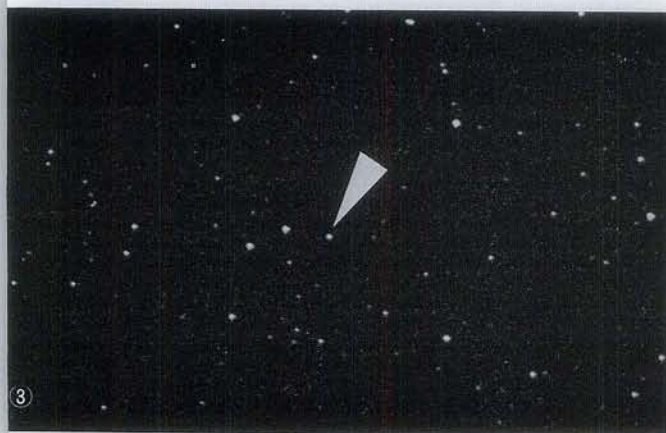
①

① 1975 年 7 月 13.513 日 (U.T.) $f=55 \text{ mm}$ $F=2$
Tri X 桑野氏 (白線は電線)



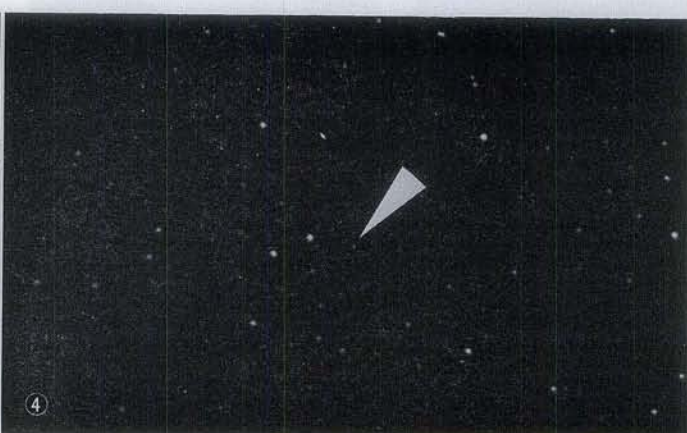
②

② 1975 年 7 月 15.573 日 (U.T.) $f=135 \text{ mm}$
 $F=2.8$ Tri X 桑野氏



③

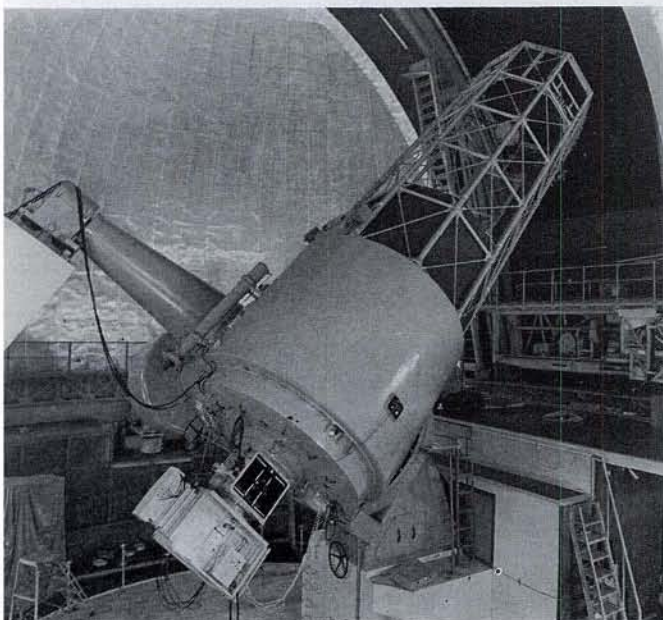
③ 1975 年 7 月 29.518 日 (U.T.)
 $f=180 \text{ cm}$. FL-0 II 小島氏



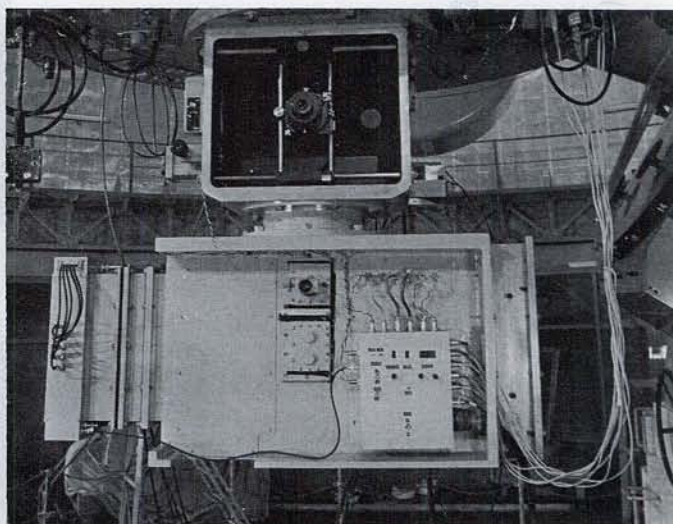
④

④ 1975 年 8 月 12.475 日 (U.T.)
 $f=180 \text{ cm}$. FL-0 II 小島氏

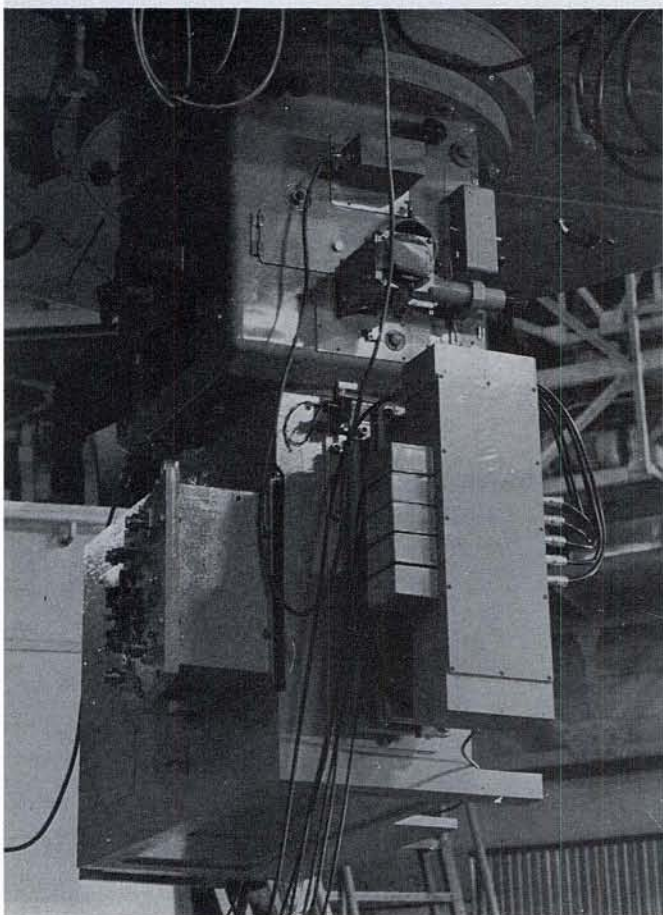
広波長域分光計 (本文 361 頁参照)



① 188 cm 反射鏡にとりつけた広波長域分光計。極軸からたれ下っているのは計算機室との間を結ぶ信号ケーブル。計算機室は北ピア（左側）の下手前にある。



② 近くから見た広波長域分光計。上半分がオフセットガイド装置、下半分が分光計本体で右端に球面鏡、右寄りに分光計制御御盤、左端に光電受光部が見える。



③ ②の左後方から見たところ。プリアンプ函が並んで見える。左に突出した部分はグレーティング回転装置。



④ 分光計の光の取入口付近。上の白い円盤には円孔が2箇所ずつ5組あって、右にみえる位置決め機構で任意の孔を選べる。下の黒い円板が星と空を切替える回転チョッパー。



⑤ 計算機室の内部。奥の机上にある横長の箱に光電子計数装置と計算機への接続回路が入っている。